

議員と話そうカフェトーク 報告書



I	議員と話そうカフェトークの概要	1
II	テーマごとの意見	2
III	参加者アンケートの結果	8
IV	参加者の感想	9
V	次回のカフェトークで話したいテーマ	11
VI	まとめ・今後の展望	12

令和7年11月20日（木）開催

長野市議会

I 議員と話そうカフェトークの概要

- 1 主 催 長野市議会（広報広聴委員会）
- 2 目 的 市民から広く意見を聴き、議会や議員を身近に感じてもらう。
- 3 日 時 令和7年11月20日（木）午後2時50分～午後4時40分
- 4 場 所 市立長野中学・長野高等学校
- 5 内 容 テーマに基づく意見交換会を実施
テーマ1 「卒業後も住みたいと思えるまち」ってどんなまち？

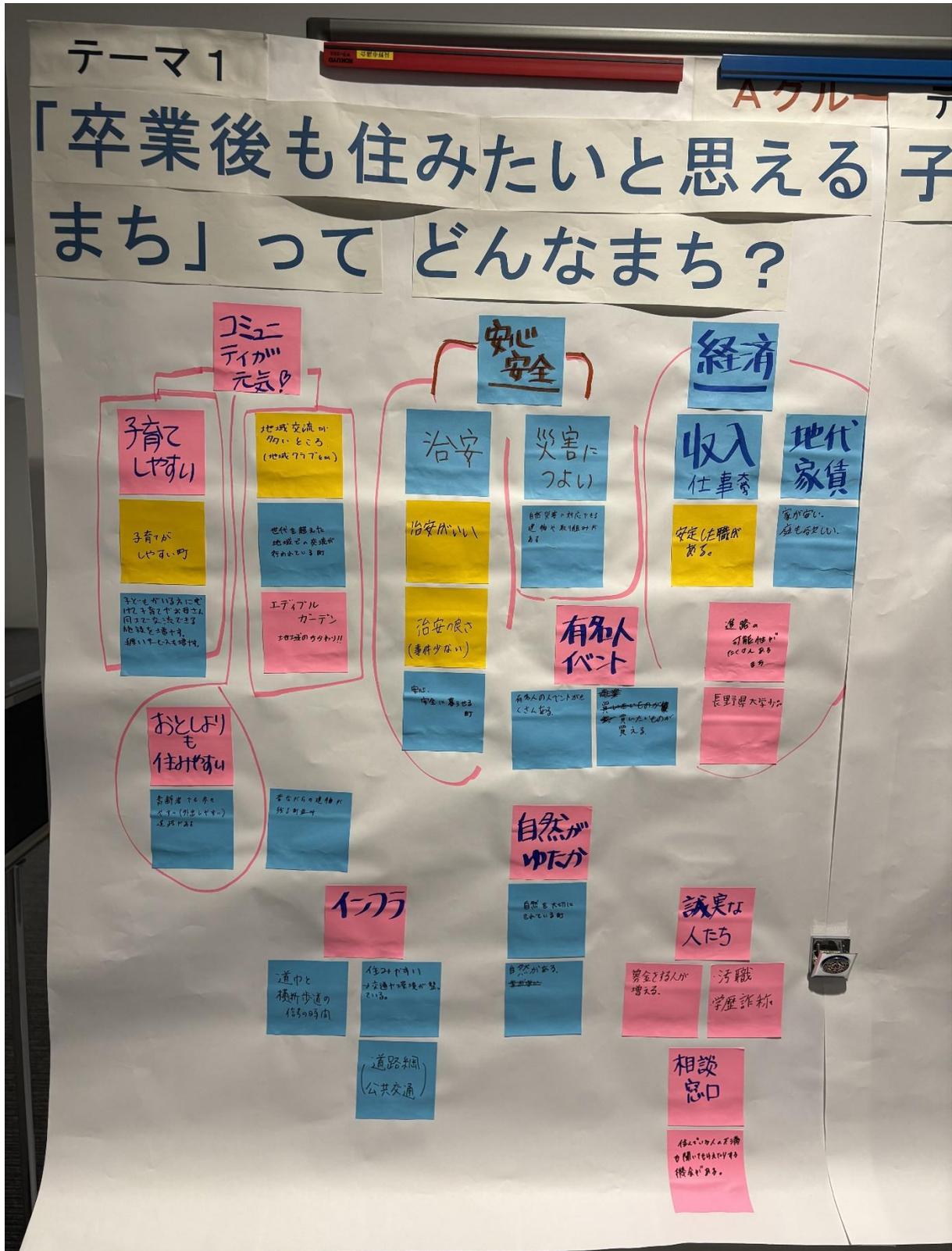
テーマ2 子どもの権利と校則、あなたはどうか考える？

テーマ3 長野市の“魅力”を全国に発信するとしたら、あなたなら
どう伝える？
- 6 参加者 市立長野中学・長野高等学校の生徒（21人）
- 7 出席議員（13人）

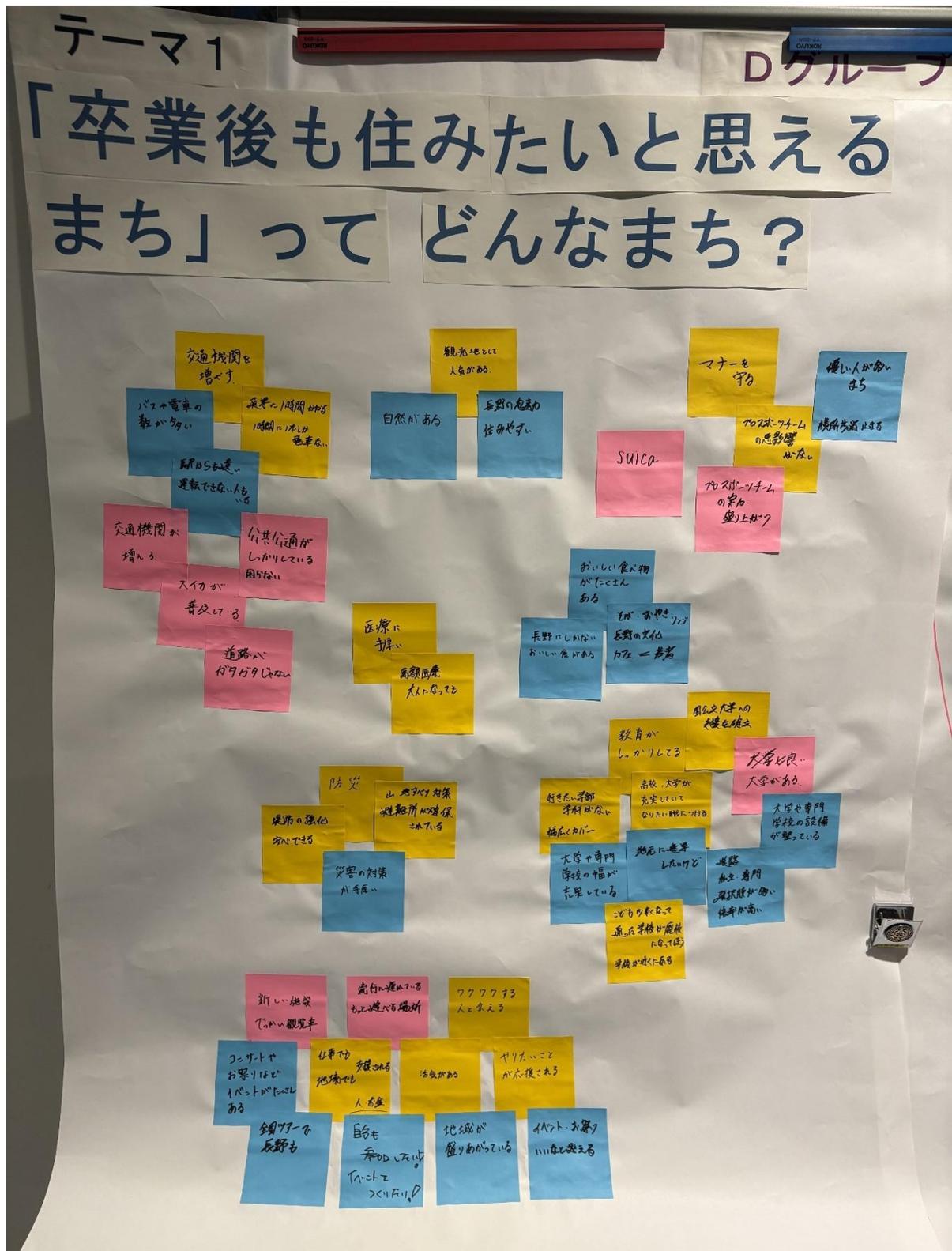
北沢 哲也 議員	加藤 英夫 議員	東方みゆき 議員
藤澤 紀子 議員	本木 晋 議員	市川 和彦 議員
内藤 武道 議員	倉野 立人 議員	佐藤 高志 議員
青木 敏明 議員	西脇かおる 議員	箱山 正一 議員
清水美加子 議員	堀内 伸悟 議員	

II テーマごとの意見

テーマ1 「卒業後も住みたいと思えるまち」ってどんなまち？



テーマ1 「卒業後も住みたいと思えるまち」ってどんなまち？



テーマ2 子どもの権利と校則、あなたはどう考える？

テーマ2 Bグループ

子どもの権利と校則、 あなたはどう考える？

校則 あまり
好きでない

ブレザーの上に
上着を着る必要
いらない。

スカート 折れ
いやいやと
折っちゃう

ナイフは
バスター
カーテン 着替え

学校のイメージ
がわる

治安が
悪くなる

やらないのが
あたりの友達は
校則になてない

スカートの下に
ジージ

ナイフは
いらない
ヤシを
あそぶ

制服
よくわかんない
校則
ヤシツ白。

校則も制服も
学校の看板

制服も
身だしなみは
無い方が個性が
出せる

制服は
かばん

生活面は
なくても
あると
前後の範囲で
できるのは

しぼられる
感じない

中学は義務教育
だからしつこい

自転車
中学はヘルメット
かぶる
高校はかぶらない

同じところに来て
いるのに
中学と高校で校則
ルールが違う

人が守らなくて
私もいいやと
なってしまう

校則が守れて
ないのは 文句が
やばい

校則はあったら
いい

テーマ2 子どもの権利と校則、あなたはどう考える？

子どもの権利と校則、 あなたはどう考える？

運動着 登校 したい!

運動着登校 ×	思いやり 認めたい	運動着は 厳しい	校舎裏の所から 運動着を 着換 ↓ ×
スカートの 下のジャージ ×	スカートの下 ジャージ認め たい	防犯上の 都合? (男が分らない)	上着は アパレル系か アパレル系は ×
↑ 他の 登校日は スワカスワカ	登校日だけ 運動着登校 認めたい	中学校 文化祭で 1-3年 5-7年 別限に70分 話し合った	↑ 重いという意見
登校用服に いかに形式を つけたか	新着の運動着 選定の運動着 で構わない	人地の高登校 スカートの ジャージは ×	私服に付いた 国旗
明確な理由 を知りたい	部活の上で 何と制約はない	↑ 校則に 関係するものか? 校則に 関係するものは ×	電車や入りの 時間の 余裕もって 下校したい

**思いやり
任せて!**

言わない 変えたい?	生徒会が 自主運営の 道具として 通いの 維持が 強い
思いやりを 下すか? 校則に 善いのか? 悪いのか?	男女活動と 禁止される
校則に ついて話し合ったら 運動着登校に 関係するものか? 関係するものか?	先輩が 言ってる 校則に ×

**意見を
任せて!**

下着は 履き替える のが 希望	学校の中 トワ履き 履き替える 希望	アパレル の自由 選択 希望
気軽に 意見を 言える 環境 作り	学校の中 トワ履き 履き替える 希望	↑ 校則に 関係するものか? 校則に 関係するものは ×

**下着は
履き替える
のが
希望**

下着は履き替えるのが希望

下着は履き替えるのが希望

下着は履き替えるのが希望

下着は履き替えるのが希望

下着は履き替えるのが希望

下着は履き替えるのが希望

下着は履き替えるのが希望

下着は履き替えるのが希望

テーマ3 長野市の“魅力”を全国に発信するとしたら、あなたならどう伝える？

テーマ3 Cグループ

長野市の“魅力”を全国に発信するとしたら、あなたならどう伝える？

SNSでの地域の人
 への発信の紹介

SNSで発信する魅力の
 発信の紹介

長野市の野菜の
 魅力の紹介

長野市独自の自然を
 発信する行政の
 (ホームページ、ブログ、
 動画)

自然を伝える本を
 読む

長野市独自の魅力
 (例: 温泉、お祭り、
 伝統行事)の紹介

自分自身や友人が
 (SNSで)発信する
 魅力の紹介

お店や施設を
 紹介する

善光寺

長野市

お祭り

SNSでの発信

情報源
 TikTok

インターネット

新聞広告

号外ネット

災害が少ない

緑が多い
 空気がきれい

親切な人
 が多い

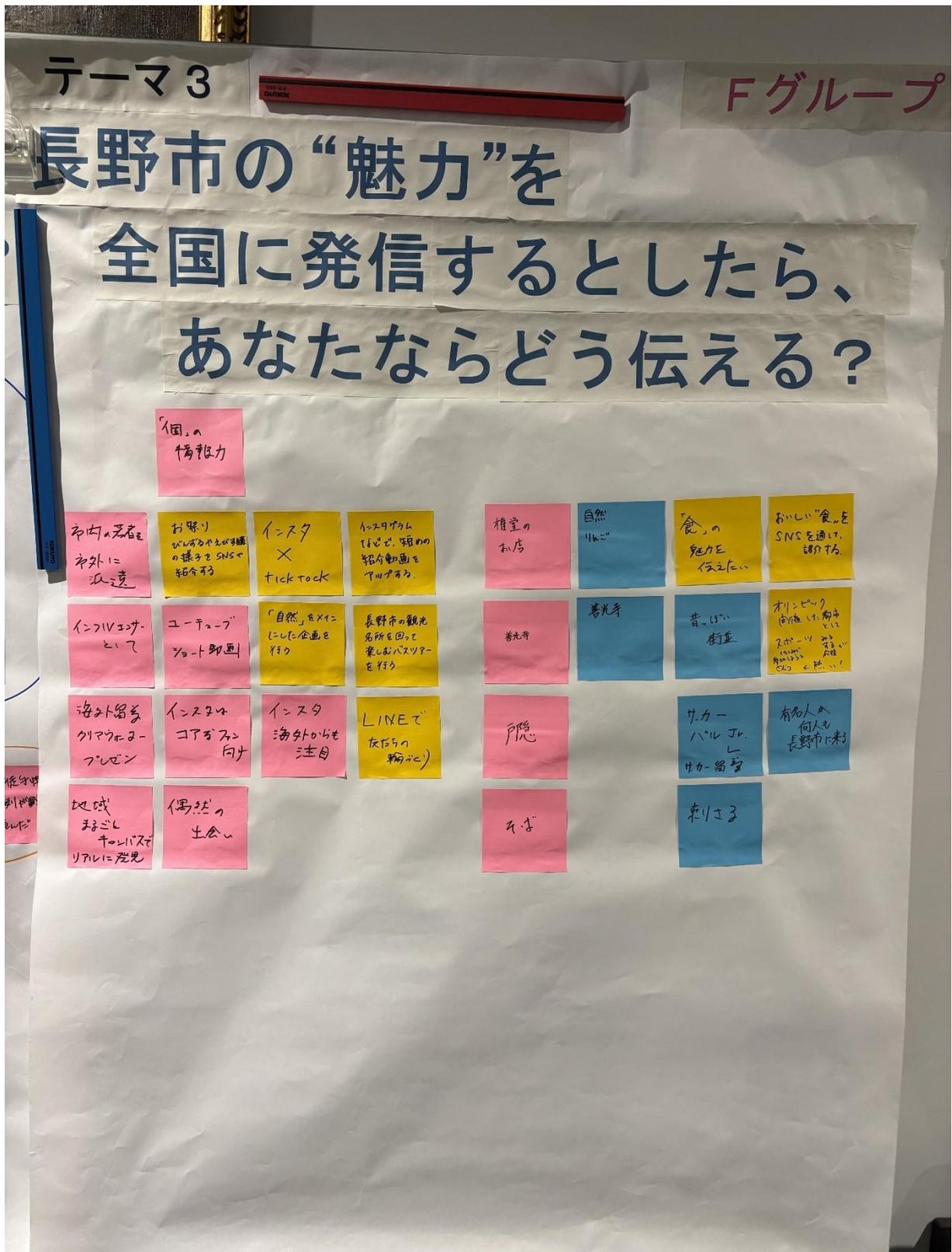
し、かり、安心して
 通え、楽しい人が多い

テレビ番組
 によって放送

公的機関の
 発信

スマホ
 SNS

テーマ3 長野市の“魅力”を全国に発信するとしたら、あなたならどう伝える？



Ⅲ 参加者アンケートの結果

アンケート回答数 20人

設問1 カフェトークの方法はいかがでしたか。

大変良かった	良かった	普通	悪かった	大変悪かった
17人	3人	0人	0人	0人

設問2 テーマの内容はいかがでしたか。

大変良かった	良かった	普通	悪かった	大変悪かった
14人	6人	0人	0人	0人

設問3 時間はいかがでしたか。

長い	やや長い	ちょうどよい	やや短い	短い
0人	0人	13人	6人	1人

設問4 議員の対応はいかがでしたか。

大変良かった	良かった	普通	悪かった	大変悪かった
17人	3人	0人	0人	0人

設問5 総合的な満足度

大変満足	満足	普通	不満	大変不満
18人	2人	0人	0人	0人

設問6 また参加したいですか。

参加したい	参加したくない
20人	0人

IV 参加者の感想

1	議員の方々が和やかに私たちの意見に共感したり、質問をして深めてくださったので、とても話しやすかった。普段こういったことについて話さないで、他の生徒の意見が聞けたのもよかった。
2	普段は、同じ学校、ほとんど同じ年代の方としか未来の長野市、学校について話し合うことができなかつたので、実際に長野市を作り上げている議員さんと対話することができる貴重な機会をいただけてうれしかった。このお話を本校で行っている探究活動に生かしていきたいと思う。このカフェトークをして、自分たちが長野市の未来を担っていくということを実感した。
3	議員の方とすばらしい活気があるトークができて良かった。市立長野高校もこれから議員さんと協力して長野市を変えていきたいと思う。自分の思っていることを口に出せて良かった。
4	議員さんの実際の思いを知ることができたし、自分の思いも伝えることができて良かった。どのような思いで長野市をよくしているのかがすごく伝わってきた。今後の未来を生きていく自分と今後の未来を作っていく議員さんと話すことができる機会があるのがとても良い。
5	普段なかなか関わることのない議員さんと近い距離で話すことができてとても良かった。自分の意見がまとまらない時もアシストしてくれて、すごく意見を発信しやすかった。とても気軽に話せてとても楽しかった。
6	普段考えることのないことを考えられる貴重な時間になりとてもうれしかった。議員の方がリードしてくれたので、話しやすく、なじみやすい会になりました。
7	和気あいあいとして楽しかった。同じテーマで話しても「たしかになあ」って思うところあたり発見があったりして良かった。議員さんだけでなく高校生とも話せてよかった。
8	普段話さない内容で、心の中で思っていることなどを実際に議員さん達に聞いてもらえてとても楽しい機会になった。 定期的にこういったことをやってもらえると話しやすくてうれしいなと思った。
9	初めて議員さんと話すことができて、長野市の魅力を再認識することができた。私の意見を全部肯定してくださったので、とても意見が言いやすかった。議員さんの面白い話をたくさん聞けたので、またこのような機会があれば参加したい。長野市にでっかい観覧車を作りたい。
10	いつも学校内の人とだけで共有している意見など、実際に議員の方たちとお話できてよかった。話し合いをしたことによって意見の視点が広がってよかった。

11	日頃思っていることを自分の言葉で議員の方々に伝える場が得られてとても良い経験だった。「長野市」に対するイメージが今までよりもっと明るいものになって、受験や就職で必ずしも長野にずっといられるか分からないけれど、私たちが長野市を守り抜いていける存在になりたいと思った。
12	議員の方と一緒に話しができて良かった。こういった若者と今長野市について考えている方々と実際に話し合うことで意見を深め合うことができて楽しかった。
13	長野市や学校の良さや改善点を改めて考えることができました。議員さんが明るく話しかけてきてくれたので、自分の意見が言いやすかったし、とても楽しかった。市の方と話せる機会がもっとあるとうれしい。
14	最初はどんな感じか分からず緊張したけど、どの議員の方も明るく接していただけて有意義な時間だった。
15	議員の方とお話しさせていただく機会はありませんでしたが、アイスブレイクでとっても和やかに話しすることができて、自分の意見をたくさん話すことができた。普段は話さないテーマについて、友達や議員さんの意見も聞けて本当に楽しい時間だった。ぜひまた参加したい。
16	議員さんって少し堅苦しいイメージがあったが、全然そんなことなく気が楽でとてもフラットな中でできたのがとても良かった。また、こうやって長野のことについて詳しく考える機会がなかったので、大人たちの視点と中高生視点を通して多くの考えや意見を知れたので、とても楽しい時間だった。
17	実際に議員さんと話す機会はなかったので、たくさん色々なお話ができて良かった。自分の意見をオーバーリアクションで聞いてくれてうれしかったし、楽しかった。またカフェトークがあれば参加したいと思った。
18	自分が長野や学校に対して思っていることをここまで真剣に話したり、考えたりする機会はなかったので、とても良い経験になった。もっとこの楽しさや色々な人と話す大切さが伝わればいいと感じた。
19	議員の方々がとても明るい方で、思っていることを何でも言いやすい雰囲気良かった。自分のテーマに何かつながることがあったと思い、とても参加して良かった。

V 次回のカフェトークで話したいテーマ

1	長野市に欲しい理想の学校
2	地域の活動について
3	どんなイベントなら参加したい？
4	これから変えていきたいこと
5	長野市を活気にあふれさせるには
6	投票率の低さ・どうやったら選挙に行く人が増えるか
7	長野市の将来性を考えるテーマ
8	今の長野市の課題点、どうなってほしいか
9	活性化プロジェクト
10	Z世代の活性化について
11	住みやすい町とはどんなまち？
12	自然を大切にしていくには？
13	長野の観光地を多くの人に知ってもらうには？
14	長野市にどんな施設が必要か
15	長野市のSDGsに対する思い、取組について
16	インフラについて
17	長野の魅力について
18	長野市の議員さんのお仕事について話してみたい
19	長野市をもっと魅力的なまちにするには
20	理想の学校運営
21	長野の魅力について
22	長野市につくりたい施設
23	長野の有名どころだけではない魅力を私たちが見つけるためには
24	地域のつながりの現状について

VI まとめ・今後の展望

■運営方法・参加人数・時間配分について

・全体的に和やかな雰囲気が進められていた。グループに呼び込む際の議員からの声掛けも気を配られていた。正副委員長の挨拶によって生徒の皆さんの緊張が解かれた印象を受けたのでありがたかった。

・1テーブル当たり、議員2人、生徒3人というのは非常にやりやすかった。比較的短い時間の中でも各々が意見を言う時間を確保できたと感じる。一方、2人が友達関係で1人だけ違うというパターンの時に、1人の側の生徒が若干意見を言いづらいような空気が少しありました。ホスト役としてしっかり意識しなければいけなかったと反省している。

・時計を持っていなかったり、教室の壁掛け時計が見にくい位置に座っていたりしたが、進行役のベルのお陰で時間が明確で、全員がそろって対応しやすかった。

・議員が座る席に半円のテーブルを当てたが、模造紙が遠く、また、向きが逆側（ファシリテーターが上側に着座）のため、付箋の整理がやりにくかった。

・今回の人数なら、半円のテーブルはなくても良いと思う。声が小さめで聞き取りにくい生徒もいるため、（生徒側の圧迫感にも配慮がいるかもしれないが）もう少し近い方が、意見交換がしやすい。

・使用した教室は「やや狭いのでは」と予想していたが、実際には生徒が回転しても窮屈さを感じず、むしろ距離が近いことで対話の集中度が高まっていた。結果として、適切な会場選定であったと感じている。

・アイスブレイクは、やはり効果的かつ有意義な時間だった。生徒の緊張が一気に和らぎ、議員側も自然体で関わることができ、全体に温度のあるスタートが切れたと感じた。特に「議員と話すのは初めて」という生徒が多い中で、会場の空気が柔らかくなったことは、意見交換の成功に大きく寄与したと思う。

・人数や会場については、程よく意見が言いやすい人数で、会場の広さも他のグループの声など気になるほどではなくよかったと感じた。

・タイムテーブルがわかりやすくプロジェクター利用もすべきだったと思う。

- ・紙コップではなく、ペットボトルを配付したほうがよいのではないか。
- ・休憩時間に、他グループの様子を確認できたことは良かった。正副委員長は全体的に把握しているので、進め方やワークシートの使い方について必要があれば、ファシリテーター役の議員に情報共有していくことも有効だと考える（特に同じテーマを取り扱っているグループ間について）。
- ・やはりグループワークが短い、もっと続けたい深掘りしたいと感じた。しかし時間の関係やテーマ設定そして学校側の都合もあるので、すぐに解決できるものではないとも理解している。
- ・生徒さんの緊張感をほぐすアイスブレイクの時間と、テーマについて考える時間、話をする時間をもう5分～10分ほど伸ばしてほしい。

■ テーマの内容について

・去年の清泉大学で行われていたカフェトークではテーブル全てで同じテーマであり、メンバーの入替えだけが行われた。それを経験していたので、同じような運用で会話を回していこうと考えていた。しかし今回のパターンでは、（生徒側からすると）先の討論と全く違うテーマを投げかけられている、しかもタイトルとして権利条約や校則といった比較的とっつきにくいものであったため、そのあたりをもっとケアするべきだった。

・子どもの権利と校則についてのテーブルだったが、まず子どもたちが「子どもの権利条例」や 自分の学校の「校則」をあまり知らなくて、私たちも市立長野の「校則」はわからないので、最初は切り口に戸惑った。（予備知識が必要だったかも、勉強不足で臨んでしまったことを反省。）

・下準備や予備学習が必要な内容よりも、その場で考えて話せる内容の方が良いのではないか。

・一見関係ないと思われる内容から話を始め、テーマを着地点として話を聞きだす努力をした。

・市立高校のカフェトークには昨年も参加したが、生徒の皆さんはテーマに対しとても真摯に受け答えしてくださるので、こちらも勉強になることがとても多く楽しくお話をさせて頂くことができた。

・今回のテーマに対し、どのような切り出し方をしていこうかと悩んだが、単刀直入に「校則で嫌だなと思うところがありますか？」と聞いたところ、思った以上に運動着登校ができないことへの不満が多く、参加者の中には、その校則を変えたいがために生徒会副会長に立候補したという生徒がいて驚いた。

・先生に気軽に相談できない、自分達の意見が通らない、校則を変えるためにアクションを起こそうとすると止められるなど、生徒が不自由に感じ、子どもの権利とは？とってしまうような声も聴き、考えさせられた。

・生徒さんたちが意見を言いやすいようにと工夫したつもりではたが、質問に対して素直に思いを伝えてくれたりと、逆に生徒の皆さんに助けて頂いた思い。

・テーマ3では、若者が本市の自然や郷土食をととても大切に思っていることや私が思っていた以上に本市に愛着を感じている生徒が多かった。市立長野高校の生

徒であることの誇りを持ち学校生活を過ごしていることも感じられた。この学校をよりよくしていきたいという生徒の思いも感じ議会としても今後の市立長野高校の在り方について議論する必要があると感じる。市立長野高校は文武両道唯一無二の公立中学校高校とし県内外からも生徒が集まる学校にしていくことが必要ではないか。

・意見を交換するテーマについて、テーマ3を話し合ったが、高校生にとっては少し難しい内容であったように感じた。私個人としては、高校生の情報収集方法などお聞きすることで、理解することができたが、多様な意見が出しづらい内容と感じた。

■ 議員の役割について

・ファシリテーター役の議員を中心に、生徒の皆さんの意見に耳を傾けることができていた。自身のグループ内では生徒さん全員が意見を表明できていたと捉えているが、生徒の皆さんがどう感じていたかも気になる。

・コーディネーター役と補助役を明確にしておけば良かった。

・サポート役の議員は、会話内で出たキーワードをメモすることを忘れないで行ってもらいたい。

・各テーブルに2名の議員を配置したが、テーマへの関心や専門性、また議員の性格や対話スタイルを踏まえて、より綿密にマッチングすると、生徒からの意見を更にも引き出しやすくなるかもしれない。事前準備の精度を高める必要もあるかも。

・ホスト役の議員が魅力を伝えたいものや人、イベントなどの事柄をしっかりお聞きした上で、ではどのように伝えていけば良いのかと、ステップをしっかりと作っていたので、高校生も話しやすく、思いが共有できたと感じた。とても素晴らしい進行をしていただいたと感謝する。

・「議員は聞き役であり、相手の意見を引き出す」という点で生徒が安心して心を開き話していただけるテクニックを事前に議員が身に付ける必要があると感じた。今後は、事前研修を行う必要があるのではないかと。期数の長いベテラン議員ほど日頃から持論を話すことが身にしみついていてよほど意識しないと、聞き役に徹することが難しいのではないかと。ホストの議員が話している時間が一番長いというのはよろしくない。途中で助言させていただいたところ改善を試みてくださったが大変そうだったし、質問から引き出し会話を広げていく作業は私も難しいと感じた。全体での事前研修の機会を設けていただくか、自習することを促すことを今後検討してほしい。

・今回逆に生徒の方が議員に気を使っているようにも感じ申し訳なかった。勇気を持って参加してくれた中学生への配慮も足りていなかったのではないかと。居心地が悪かったのではないかと反省している。

■今後の展望について

- ・受入れしていただいた先生方の感想や要望をしっかりと捉え、改善点があれば対応して行くべき。
- ・議員を身近に感じてもらうという点においては、参加していただいた生徒の皆さんの反応を受けて達成できたと言える。市民（生徒）の意見を反映させる点については、もっと対話を深めたいという思いもあるため、今後の議員活動や議会のあり方として考えていく必要がある。
- ・中学生や高校生といった貴重な若者の意見を聞ける機会は本当に大事だと思います。広報広聴や議会全体として、このような意見交換の場は増やしていくべきだと思います。生徒などに限らず、労働者や高齢者から意見を聞く場があってもいいのではないかと。
- ・同じ学校で回を重ねるなら、お互い慣れていけると思うが、ずっと同じ学校で開催していて良いのか？という思いもある。実施可能な回数が限られるなかで、開催場所の選定（継続）についても固定化せず、一定期間ごとに協議をしてはどうかと考える。
- ・市立長野は長野市の中学高校なので、特色の一つとして毎年議員との意見交換会がある、という定番にしてもいいのでは。また、自分たちの将来の方向性の一つとして、行政や議会で働くという可能性も視野に入れていただく良いチャンスだと思う。
- ・生徒との意見交換会の機会は、市政発展に向け大変有意義であるため、私たち議員がブラッシュアップする必要がある。
- ・意見交換を議員と生徒とですることは大変有意義であり、未来志向の意見交換ができ、継続していただきたい。
- ・この展開をさまざまな、学校へ横展開できると、より議員の存在が身近に感じられると思う。
- ・この意見をまとめて、意見が寄せられた実際の部局まで伝わるようにしていただけたら、意見交換会の意義がもっと成果の出るものになるのではないかと。

・議員が生徒と意見交換したこと、どんな意見が出たか？市議会だよりで紹介してほしい。

・本市の課題に関係する意見が多く、参考になった。中・高校生から日常的に政策的な提案を募り、本市の政策に反映できる制度・システムの構築が必要ではないかと思った。

・意見交換会の目的の議員を身近に感じてもらうということについては、生徒の皆さんがどのように感じていただいたのかを知った上で、今後どのように行うことが満足度を上げられる方法か検討できるのではないかと感じた。

・カフェトークに限らず、若者世代の声を聴く場面を作る必要があるのではないか。

・出された意見を議会全体にフィードバックして、政策に反映させる必要があるのではないか。

■所感

・市立長野高校との意見交換会は、若い世代の率直な声に触れる貴重な機会であり、議員それぞれが改めて「若者の視点を政策にどう反映していくか」という課題に向き合う機会となったのでは。特に、生徒の皆さんがテーマごとに真剣に考え、自分の言葉で意見を述べる姿は非常に印象的で、そこには地域への思いや、自分たちの未来を主体的に描こうとする姿勢が強く感じられた。

・会場を回る中で、どのテーブルでも生徒と議員が自然体で対話を交わし、時に笑顔も浮かびながら議論が深まっていく様子を見ることができた。「議員と高校生」という垣根を越えた、双方向性のある活発な意見交換が実現したことは、大きな成果であったと思う。

・若い世代が持つ感性や価値観は、私たち大人が想像する以上に柔軟で広がりがあり、市政運営に新たな視点をもたらす可能性を秘めている。今回の意見交換で出された「住み続けたいまちの条件」、「校則と権利のバランス」、「長野市の魅力の伝え方」といったテーマは、まさに長野市がこれからの時代に向けて取り組むべき課題であり、若者の考えは政策づくりに大きなヒントを与えてくれるものだった。

・今回の意見交換会は、生徒の皆さん、教職員の皆さま、そして議会事務局、議員それぞれの協力によって成立したものであり、その成果は参加者全員の共同の財産であると思う。

・生徒さんは、住みたいと思えるまちの優先順位を個人ではなく、公共的な視点で考えた発言が多く、次の世代を担う若者として頼もしいと感じた。

・今回の対話を通じて、「若者はこう考えているだろう」という決めつけをせず、丁寧な声を聴くことこそが広報広聴の役割であり、市政運営における最も重要な姿勢だと実感した。

■その他

・事前の打合せや準備について、事務局の負担が大きくないか気になる。